

# OLIVE-SPIRIT

関東学院学報 オリーブ・スピリット

September.2017

No.

53



## 国内外の教育機関との交流を活性化し、新たな教育のステージへ。

加速化するグローバル化やボーダーレス化により、社会構造はもちろん、人間が働く意義や目的までもが変わりつつある現代社会においては、人材育成を担う大学もまた、変革の歩みを止めることはできません。

時代が大学に求めるものは何かを考えた場合、多様なニーズを受け止める余裕がもつと大学にあっても良いのではないか。そんな思いから「多様性に溢れたキヤンパスの創造」に挑むのが、関東学院大学です。

成長著しいベトナムをはじめ、国内外の教育機関との学術交流を推進。そこで、規矩大義学長に、その現状と狙いについて語っていただきました。

### 多様な国籍、世代、背景の人材が学びあえる教育環境へ

急速に進むグローバル化やAI技術の進展など、現代社会はめまぐるしく変化しています。どんな時代や社会にあっても他者と協働・共生できる力を学生に身につけてもらうために、「多様性への対応」は大学の果たすべき重要な使命と言えるでしょう。

教育の多様性という観点では、社会全体をフィールドに、近隣の自治体や企業と連携した実践的な学びに力を注いてきました。そしていま、まさに関東学院大学が取り組んでいるのが、「キヤンパスの多様性の向上」です。学生たちの学び方は決して一つではありません。日本人学生だけでなく、様々な国籍の留学生や研究者がいる。社会を経験した大人もいる。多様な人材が集い学べるキヤンパスが、これからの大學生の当たり前の姿だと思うからです。



▲世界中から留学生が集まるハワイ大学 KCC

### 学びの機会を広げる 沖縄大学との交流協定



▲調印式での規矩学長と沖縄大学の仲地博学長  
長期休業期間中のサマープログラムなども検討中

多様性という意味では、海外だけでなく、留学生を受け入れて、多様性に富んだキャンパスを実現したいと思います。

### 日本からの留学生を後押しする レインボープログラム

ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジ（KCC）との学術交流協定は、ベトナムとは異なります。これまでもKCCとは交流を深めてきましたが、昨年新たに締結した語学派遣留学の協定により、KCC

現在、国内外の教育機関との学術交流協定を積極的に推進。単なる交換留学や語学研修に留まらず、留学生がしっかりと腰を据えて学べる体制を整えています。大学院では、土木工学分野で、英語だけで修了できるコースが既に始動。学士課程でも、人間共生学部が英語だけで修了できるコースを準備中です。

そして、ダブルディグリー・プログラムの導入。これは、提携校の大学生が提携先の大学に留学した場合、両方の大学の学位が取得できる制度です。また、日本での就職を希望する留学生への支援も強化するため、横浜国立大学、横浜市立大学、神奈川大学、関東学院大学の4大学で、留学生の就業支援プログラムをスタートさせました。現在、留学生数は約100人。学生全体会員の3%になるとキヤンパス約1%です。それが3%になるとキヤンパスの雰囲気は全く変わります。3倍というのは高い目標ですが、外国人留学生の意欲と向学心は、日本の学生にも大きな刺激となるはず

です。相乗効果を期待する意味でも、多くの留学生を受け入れて、多様性に富んだキャンパスを実現したいと思います。

### いま最も勢いのある国ベトナム 職員が常駐して強固な連携を構築

いべトナムとは特に交流を進め、これまでにハノイ工業大学や貿易大学など12の高等教育機関と学術交流協定を締結しました。ハノイ工科大学は、内最高位の名門国立大学。ここでは日本への留学を希



▲6月21日ハノイ工科大学で行われた協定締結式



▲貿易大学内にあるベトナム現地事務所の外観



関東学院大学 学長  
規矩 大義

九州工業大学大学院工学研究科  
設計生産工学専攻博士後期課程修了。  
横浜国立大学助手を経て、官民の防災研究の職場を経験。  
2002年関東学院大学工学部着任。  
2013年12月本学学長就任。

多様性という意味では、海外だけでなく、留学生を受け入れて、多様性に富んだキャンパスを実現したいと思います。この協定によって、沖縄大学との提携も欠かせません。その一環として沖縄大学との大学間交流協定を本年6月に締結。共同研究の実施や共同シンポジウムの開催、中長期での職員の人事交流はもとより、1年間または半年間の学生の相互受け入れを来年度より実施します。全く異なる環境で学ぶことで、日本国内においても異文化を体験的に学修する機

Cでの1セメスター（約4か月間）のプログラムに本学の学生が参加できるようになります。また、KCCに留学した日本の学生が、3・4年次で日本に戻る選択をした際に本学で受け入れる、通称「レインボープログラム」を開始。この制度を活用して、六浦高等学校から留学に挑戦する生徒が増えることにも期待を寄せています。

BIZ」の構築です。ベトナムに進出している日本企業にご協力いただき、ベトナムの学生がビジネスプランを通して様々な課題に取り組みます。結果として日本への留学や就職を考える学生もいるでしょうし、企業にとつては優秀な人材の雇用にもつながります。

昨年開設したベトナム現地事務所には、本学から派遣した職員を常駐させ、連携推進の拠点とします。特に若い職員には非常に良い経験になるのではないでしょうか。

会を学生に提供し、他者と協働・共生できる人材の育成を目指します。

横浜も沖縄も、外からの文化を受け入れることに関しては先進的で、若者には魅力的な都市だと思います。沖縄の学生にとっては、横浜を拠点として社会と連携した学びを経験することは大きな刺激となるでしょう。横浜の学生も、1年ほど沖縄に移住して学ぶことで人生観が変わるかもしれません。こうした提携を充実させ、様々な地域から学生が集い学ぶことが、本学の学生にとって普通の光景になってくれればと思います。

多種多様な個性が作用しあう  
ダイナミックな教育を創造する

他にも教育の門戸を広げるために、大学の土木・都市防災コースの科目では、高卒で鉄道事業に就業した社会人が、学生と一緒に授業を受けながら大卒資格を取得する

寄附講座を開始。実社会での経験が豊富な社会人との交流は、学生にとっても貴重な体験となるでしょう。

また、4月に湘南・小田原キヤンパスに開設した「国際研究研修センター」では、材料・表面工学研究所に加えて、今夏から機能性食品分野と防災減災復興学の研究所が始動。国内外の研究者や留学生の受け入れを促進し、高度な技術者を育成する研究機関として、地域や国際社会に情報を発信していくきます。

それぞれに目的があって、多種多様な人が集まり、教育や研究が行われている。キヤンパスの中には、社会を実感できる。本来、大学とはそういう場所です。ぜひ多くの人と交流し、語り合い、協働しながら、幅広い教養と世界観を身につけてほしい。

結果的に、大学で学ぶ意義や価値、そして学ぶ楽しさを学生にわかつてもらえば、それが最大の収穫であり、私たちの願いであります。

## グローバル社会の一員としての自覚を育む、気づきの教育を実践。生きる力「英語」と、人生を変える「体験」が、未来を拓く。

2040年に日本の65歳以上の人口割合が全国平均で36%に達すると予測されています。労働者数の減少に伴い、産業を維持するために多くの優秀な外国人が入ってくることは避けられない現実です。現在の中学生は、2040年には35歳。社会の中核で働く年齢を迎えたその時、社会に貢献できる、あるいはリーダーシップを發揮できる力の基を育むことが、関東学院六浦中学校・高等学校がいま追求しているグローバル教育です。そこで黒畠勝男校長に、同校のグローバル教育についてお話をうかがいました。

### 異文化の中で他者との関係を学ぶ 実学的学習を基軸とした教育

「グローバル化の中で働くとは、海外で活躍することだけを指すものではありません。10年後、20年後、国内がグローバル化する時代が必ず来ます。その時に力強く生きる力を育む教育をしています」

そう語る黒畠勝男校長は、子どもに「気づき」の体験の場を与えることの重要性について、以前から強く指摘しています。「子ども自身が異質なものと交流する中で、初めて自分という人格が見えてきて、他者との関係性を学ぶことができる。そのためには単一、均質性のまだ強いためには、海外に興味があり、高2の秋には留学を視野に入れていました。10年ほど前、当時台湾に赴任していた叔父を訪ねたことがあります。食べ物が美味しい、人が親切だったことを憶えています。その時の印象もあり、距離的に近く、日本人も生活しやすいと思い、台湾への進学を決めました。

**英語以外の授業と格闘して自信と積極性を身につけた3か月**

関東学院六浦中学校 3年 山垣 亮さん

今年1月から3月までの3か月間、オーストラリアのブリスベンにターム留学をしました。現地の学校に通いながら、週末は友だちやホストファミリーと遊びに行ったり、日本にいる時と同じように暮らしていました。語学学校ではなく、一般校に入ったので、英語以外の授業も全て英語で受講しなくてはなりません。行く前に英検の準2級を取得して、ある程度自信をつけたつもりでしたが、日常会話ならまだしも、授業は教科ごとの専門用語もあるので苦労しました。それでも食らいついで、最後にはほぼ理解できるまでになりました。



### 語学力を武器にアジアへそして世界へと飛躍

台湾 静宜大学 管理学部観光事業学科 2年  
(2016年3月 関東学院六浦高等学校卒業) 風間 日香理さん

私は現在、台湾の台中市にある静宜大学に在籍しています。授業で使うのは中国語(華語)です。もともと海外に興味があり、高2の秋には留学を視野に入れていました。10年ほど前、当時台湾に赴任していた叔父を訪ねたことがあります。食べ物が美味しい、人が親切だったことを憶えています。その時の印象もあり、距離的に近く、日本人も生活しやすいと思い、台湾への進学を決めました。

中高を関東学院六浦で過ごした私は、高1の夏にアメリカのシアトル研修、高3で台湾の大学視察旅行に参加しています。英語も好きで積極的に学んでいました。その一方で、中国語にも興味がありました。ちょうどその頃、台湾の大学進学説明会が高校で開催され、それをきっかけに高3の4月から語学学校で中国語を学び始めました。いまでは中国語に不自由はありません。英語よりも自信があります。

大学生のうちにやりたいことはたくさんあります。台湾からさらに別の国への留学も検討中です。プランとしては、3年次に大学の制度を活用して、台湾の学生として欧米への留学を考えています。日台の交流会などにも積極的に参加して人脈を広げたいですね。中高の頃はどちらかというと消極的だったので、海外に出たことで成長できたのかなと思います。



### 幸せとは何かを考えさせられた カンボジアでの研修

#### 関東学院六浦高等学校 1年 林田 友佑さん

中学3年の冬休みにカンボジアのサービスラーニング研修に参加しました。現地の小・中学校を訪問して理科実験や運動会、クリスマス会などの教育ボランティアを行ったほか、高校生と交流してカンボジアの歴史を学びました。



理科実験では、空気砲の実験をしたり、スライムを現地の小・中学生と一緒に作ったりましたが、皆すごく真剣で、勉強への意欲の高さを感じました。また、運動会に参加してくれた小学生にノートを配ったのですが、一人ひとり笑顔で、大事そうに受け取ってお礼のポーズをしてくれたことがとても印象に残っています。カンボジアの内戦や虐殺の歴史については事前に勉強していましたが、実際にその場所に立つと紛争の悲惨さがリアルに感じられ、様々な思いが込み上げてきました。

実は出発する前、参加者で話し合って「幸せとは何か」というテーマを設定して行ったのですが、実際にカンボジアに行ってみて、幸せというものに対する見方が変わったと思います。例えばカンボジアはものが少なく貧しかったりしますが、僕の目には日本より笑顔が多くて、人と人とのつながりがあたたかく感じました。必ずしも豊かなこと=幸せではなく、いろんな幸せのかたちがあり、そのことをもつと考えいかなければいけないと思います。



▲様々なレベルで開講する放課後の英会話教室

リッシュ・ラウンジで熱心に英会話を指導しています。また、能力に応じた校内英会話教室の開講や、外部試験も積極的に取り入れてレベルアップを図っています。「異文化の中で意思疎通し主体的に行動するためには、英語が使えることが必須です。教科ではなく、生きる力です」

興味や関心で選べる海外研修は、7か国・13コースを用意。また、中2・中3で実施するオリジナル授業「地球市民講座」では、

生徒自ら選んだ国の文化や社会を徹底的に調べたり、世界で起きている問題を自分と関連付けて学び、海外研修につなげます。「カンボジア研修から帰った生徒が、現地の学生とお互いのテスト問題を交換した後は、自分がまだ学んでいないハイレベルな問題で驚いたと話していました。その時、彼は自分のカンボジアに対する先入観に気づき、それを壊すことができた。この気づきが大切で、新たな視点を生む動機となるのです」



▲経験豊富な多国籍のネイティブ教員によるマンツーマン指導

### 六浦校地の連携を強みに 留学希望者を手厚くサポート

六浦における各校との連携も積極的に進めています。例えば、ネイティブ教員を小学校に派遣。高学年の授業を担当し、中学校からの英語教育につなげるなど、六浦校地での授業や教授法の一貫を図っています。

今後は海外留学を希望する生徒へのサ

ポートに一層力を入れていく予定です。「中高での留学経験は勿論、高校卒業後の海外進学の価値は高まります。日本の大

学で学ぶ海外留学生に、日本国内での就職者が増えている実態を注視することです。10、20年後の社会を考え、本校は、マレーシア、台湾、ハワイ等への進学の道を太く

したい。SGHではありませんが実質的に『世界に近い学校』を目指します」

教員の愛情を感じながら、安心して英語の楽しさを学んでほしい。チームワークと連携が生む、豊かな教育環境。

関東学院六浦小学校では1年生から週2時間の英語授業を実施。コミュニケーションの楽しさを通じて、子どもたちが中高に進んでからはもちろん、将来にわたって英語力を伸ばしていく力の土台を形成します。授業を担当するのは、日本人教員と4人のネイティブ教員によるチーム。英語に向き合ってきたきっかけを大切に、子どもたちの意欲や向学心を引き出す教員のチームワーク、そしてグローバルマインドの基礎となる人間形成につながる教育環境について、英語科の九里有子教諭にお話をうかがいました。

魅力溢れるネイティブ教員が  
子どもたちの学びのターゲットに

**子どもたちの学びのターゲットに**  
「英語でコミュニケーションができる喜びや楽しさを子どもたちに感じてほしい。6年間豊かに学ぶためには、ネイティブの先生と子どもたちとの言語関係がとても大



「英語でコミュニケーションができる喜びや楽しさを子どもたちに感じてほしい。6年間豊かに学ぶためには、ネイティブの先生と子どもたちとの信頼関係がとても大切です」

気持ちが、学びのベースになっています」  
子どもたちが使える英語の言葉は限られていますが、それでも自分の思いを伝えたい。先生が笑顔で応えてくれるとうれしい。小さな成功体験を重ねるともつと勉強したことになる。英検や英検Jr.にも多くの児童が積極的に挑戦しており、児童の思いをうまく引き出し、英語学習へ



▲先生を囲んでの遠い小撮業にそぞもたれも笑顔

大変良い環境だと思います」  
ただ単に英語を教えるのではなく、人間形成の部分も一緒に学ぶことができるところは、六浦小学校の英語教育の大きな強みといえるでしょう。



▲電子黒板やタブレット端末などのICTを積極的に活用した授業

関東学院六浦こども園は、遊び＝学びの視点を大切に、子どもの主体性や創造性を育む教育を行っています。

「遊びは子ども自らが楽しさを感じて、仲間とつながり、意欲的に行うもの。それは幼児の英語教育にも通じることだと思いまます」

遊びも、英語も、人と人をつなぐもの。コミュニケーションの力だと根津美英子園長は話します。だからこそ、自ら心を動かすような仕掛けが大切なだけ。

そこでこども園では、年中クラスと年長クラスを対象に、国際性に触れる機会として「英語であそぼう」という遊びを実践。関東学院六浦小学校の英語科・九里有子教諭が来園して、歌やダンス、ゲーム、絵本などの遊びを通じて、子どもたちに英語の楽しさを伝えています。

作を表現して、頭で  
に触れます。元気な  
きわたるほどです。  
九里先生の指導力と  
表現力が本当に素晴らしい。  
子どもたちも先生のことが大  
好きで、心待ちにし  
ている。そこがと  
ても大事なんです」  
大好きな先生と、  
英語を通してつな  
がっていく楽しさ。  
そこから英語つて面白  
いなど、子どもた  
ちに感じてほしい。  
それは遊びのスタン  
スと全く一緒といえ  
ます。



の中学校・高等学校、小学校、こども園が合同で行う「英語フェスティバル」に参加。日頃の成果である英語バフォーマンスを披露します。

「生き生きと自信に満ちた表情の子どもたちに、教職員はもちろん、保護者の皆さんも感動でいっぱいになります」

一方、幼少期は、日本語の理解力もまだ十分とはいえない時期でもあります。

「やはり一番重要なのは母国語。その



ために、絵本やお話の時間を重視しています。英語力があればグローバルな人になります。英語でちゃんと表現できる力を持つていなければ」

目指しているのは、英語力の向上ではなく、自分の思いを表現するための言葉の力を養うこと。それがコミュニケーションの礎となり、将来、様々な人や文化と出会つていく中で、必ずや生きるに違いありません。

英語力とは「ミニミニケーシング」力。遊びを通じ全身で思いを表現する学び。人と人をつなげる、言葉の楽しさを伝えたい。

関東学院六浦こども園

「皆、歌に合わせて生き生きと全身で動作を表現して、頭ではなく、耳や体で英語に触れます。元気な歌声はフロア全体に響きわたるほどです。

九里先生の指導力と表現力が本当に素晴らしい。子どもたちも先生のことが大好きで、心待ちにしている。そこがとても大事なんです」

大好きな先生と、英語を通してつながっていく楽しさ。そこから英語つて面白いなと、子どもたちに感じてほしい。それは遊びのスタンスと全く一緒といえます。



A photograph showing a group of young children sitting in rows, facing forward. They appear to be in a classroom setting, possibly during a lesson or activity. The children are looking upwards and pointing their fingers towards the ceiling, suggesting they are engaged in a discussion or following a teacher's instructions. The background shows other children and classroom furniture.

ために、絵本やお話を時間を重視していきます。英語力があればグローバルな人になれるわけではありません。母国語でちゃんと表現できる力を持つていなければ」

目指しているのは、英語力の向上ではなく、自分の思いを表現するための言葉の力を養うこと。それがコミュニケーションの礎となり、将来、様々な人や文化と出会つていく中で、必ずや生きるに違いありません。

▲歌やダンスで元気いっぱいに表現する「英語であそぼう」



関東学院 理事  
法人事務局局長  
**小川 昌幸**

関東学院大学経済学部卒業後、大学教務課に入職。その後、大学庶務課長、教務課長、事務次長等を経験後、法人事務局総務部長を経て現職。2017年4月理事就任。

## 「人になれ 奉仕せよ」の本質的な意義に立ち返りその具現化に挑みます。

学校法人関東学院寄附行為（学校法人の根本規則）の変更に伴う理事構成の改変により、法人事務局局長が新たに理事の一員に加わりました。そこで今年4月に理事に就任された小川昌幸局長に抱負をうかがいます。

職員の業務遂行力を高め価値ある教職協働を実現し改革を進めていきます。

学校法人関東学院寄附行為（学校法人の根本規則）の変更に伴う理事構成の改変により、法人事務局局長が新たに理事の一員に加わりました。そこで今年4月に理事に就任された小川昌幸局長に抱負をうかがいます。

### 事務職から初の理事就任 学院運営の現場の改善に挑む

関東学院はこれまで、大学からこども園まで含めた教員の理事は多数いましたが、事務職員として就任するのは私が初めてとなります。職員は勤務年数が比較的長く、また、教員とは違う立場で学院を見ています。私自身、入職から38年間、大学内の教務課から始まり、大学内の複数の部署や法人事務局、さらに金沢文庫キャンパスや小田原キャンパスでの勤務も経験してきました。その経験を活かし、俯瞰的、長期的視点で、今後の学院のあり方を考え、経営を担当する理事の一員として貢献したいと思っています。

今回の寄附行為変更の大きな目的は経営力の強化であり、そのため理事会の機能強化の一つとして業務執行力の強化があげられます。そして業務執行を担うのは職員



関東学院六浦小学校 校長  
**澤 章敏**

横浜市出身。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。  
1990年関東学院六浦中学校・高等学校に社会科教諭として着任。  
2005年から2011年非常勤講師として関東学院大学の教職課程担当。  
2008年関東学院六浦中学校教頭に就任（～2016年）。  
2017年4月より現職。

今年4月1日より関東学院六浦小学校に就任された澤章敏校長。長年、六浦中高に勤務し、小学校から上がつてくる子どもたちを見つめてきた経験を生かした、新たな視点からの学校運営や指導に期待が寄せられています。

## 学院に継承される校訓「人になれ 奉仕せよ」の本質的な意義に立ち返りその具現化に挑みます。

教育力の強化については、こども園から大学まで含めた六浦の利点を生かし、各校の連携をより強めていくことが必要です。既に六浦中高とは英語を中心とした連携教育を行っていますが、今年度から新たに6年生の聖書の授業を、六浦中高の宗教主任の先生に担当していただいています。

今後も連携による学びの機会を増やすと

ても、卒業後に安心して六浦中高へと進学できる環境を整えます。  
教員のスキルアップの機会も充実させていきます。従来の教員研修のほか、今年度は外部からスーパーバイザーを招聘。また、外部研修や授業見学なども積

極的に取り入れていく方針で

す。私立学校は人事異動がな

いため、相対的に自らを評価

する視点に欠けがちですが、

その意味でもスーパーバイ

ザーはもちろん、六浦中高か

ら来た私の存在もプラスに作

用すると思っています。

一方、学校の経営や運営を

維持し、理想とする教育を追

求するためにも、児童数を増

やすことは現実的な課題で

す。そこで広報活動や児童募

集も見直しを図ります。

大学に至るまでの一貫した学

びのメリットを訴求すると同

時に、外部の中学校や大学へ

の進学を希望するご家庭に

も、本校の教育力を知つてい

ただくなど、多様なニーズに

応じた施策を進めています。

様々な面で改革を実施し、これまで以上に「選ばれる学校」になつていくこと。それが4年間の任期での私の責務であり、着実に成果を出していきたいと思います。

応じた施策を進めています。

組織であり、理事としての責任をもつて、理事会での決定事項を着実に進めていくことが私の役割の一つだと認識しています。これは、教員と職員との信頼を得ることが大切です。これからは、職員に求められるものは、常に問題意識を持ち、日々の業務の中から問題を見極め、解決するためには何が課題となるか明らかにし、解決策・対応策を組み立てられる能力、それを実現する能力です。当然、実現までの過程においては他者とのコミュニケーションを図り、理解や協力を得るための能力も必要となりますが、こうした能力は、若い時から日々の業務の中で養つていかなければなりません。

各部署の上司の役割は重要です。意識改革を促し、各部署での指導を徹底していく必要があります。こうした能力は、若くから日々の業務の中で養つていかなければなりません。

事務局の責任者としての役割と経営者側の理事とのバランスをうまく図りながら職員一人ひとりが健康を維持して、働いていける環境・制度作りは、法人事務局局長として重要な責務です。

事務局の責任者としての役割と経営者側の理事とのバランスをうまく図りながら職員一人ひとりが健康を維持して、働いていける環境・制度作りは、法人事務局局長として重要な責務です。

事務局の責任者としての役割と経営者側の理事とのバランスをうまく図りながら職員一人ひとりが健康を維持して、働いていける環境・制度作りは、法人事務局局長として重要な責務です。

の経営や運営に関して大きな役割を担うことができれば、教員は教育・研究に集中することができます。これが、結果として学院の根幹のステージも上がることにつながります。



## 自分たちのデザインで、大学や社会に貢献していきたい。 制作活動を通じて、サークルも学生も成長中！

「自分がこの大学で何をしたかという痕跡を残したいと思い、2年生の時にサークルを設立しました」

そう語るデザインクラブの初代代表、都志見龍二さんは現在4年生。主な活動内容

は、大学のイベント周知のポスターなどの制作作物のデザイン。そして、教職員や広報課を通じて、学部を横断した企画や、企業からの依頼にも精力的に取り組んでいます。

「サークルなので、それぞれの得意分野を生かし、基本的に全員で協力して一つの企画に向き合っています」

最初の大きな仕事は2年生の時。大学図書館が開催する「平潟祭ビブリオバトル」の周知ポスター、来場者に配布するエコバッグのデザインです。

「サークルを作った時から、自分たちのデザインで大学を埋め尽くしたい

ところすれば良かったな

ど反省も多かったですね」

設立時からのメンバーである唐澤碧海さん（4年生）は、副代表としてサークルの運営を支えながら、得意の手描きを生かして制作に参加してきました。特に印象に残つ

た、「うれしい反面、もつ

とこうすれば良かつたな

ど反省も多かったですね」

設立時からのメンバーである唐澤碧海さん（4年生）は、副代表としてサークルの運営を支えながら、得意の手描きを生かして制作に参加してきました。特に印象に残つ

た、「うれしい反面、もつ

とこうすれば良かつたな

ど反省も多かったですね」

設立時からのメンバーである唐澤碧海さん（4年生）は、副代表としてサークルの運営を支えながら、得意の手描きを生かして制作に参加してきました。特に印象に残つ

た、「うれしい反面、もつ

とこうすれば良かつたな

ど反省も多かったですね」

設立時からのメンバーである唐澤碧海さん（4年生）は、副代表としてサークルの運営を支えながら、得意の手描きを生かして制作に参加してきました。特に印象に残つ

## 世界をフィールドに活躍する、けん玉ユニット「ずくまだんけ」 けん玉の新しい魅力を発信していきたい。



けん玉ユニット「ZOOMADANKE」  
飯嶋 広紀 さん

1990年神奈川県生まれ。2010年結成のけん玉ユニット「ZOOMADANKE」の一員。ダンス経験を活かしたプレイスタイルが特徴。デンマークのけん玉ブランドKROMの個人契約プロ。関東学院中学校高等学校のOBでもある。

飯嶋さんは、中高6年間を三春台の関東学院で過ごしました。小学生の時からけん玉が好きでよく遊んでいたそうです。

「高校時代、台湾の研修旅行に行つた時、現地の交流会でけん玉をやって見せた記憶があります」

「大学2年生だった2010年、おもちゃや興味があつた飯嶋さんは、都内で「おもちゃコンサルタント」の資格取得講座を受講。そこで相方である児玉さんと運命の出会いを果たしました。『たまたま同じクラスに相方がいて。講義の時に僕がけん玉をしていたら、教えてよと声をかけられたんです』

「師匠となつて教えているうちに意気投合。とある発

「『ずくまだんけ』は、飯嶋広紀さん（イーディー）と児玉健さん（コダマン）の2人にによるけん玉ユニット。音楽やダンスを融合させたパフォーマンスで、けん玉の新しい魅力を伝えています。現在は商業施設や各

種イベント会場で年間100以上のステージをこなすほか、テレビ出演や海外公演も多数。また、幼稚園や学童保育でけん玉教室を開催するなど普及活動も行つています。



▲六浦こども園でけん玉パフォーマンスを披露した時の様子。

「けん玉は面白いのに、日本では地味な昔の遊びというイメージ。いろんな動きを交えてイメージを変えていけたらいいねと2人で話したのが、結成のきっかけです」

最初は知り合いの保育士がいる園や学童保育を転々としながら、少しずつ活動を拡大。ちょうどその頃から、海外でけん玉ブームが巻き起こります。それが逆輸入される形で、日本でも火がつき出したのが2011年頃。

「僕らがようやく自信を持つてパフォーマンスできるようになつた頃。ありがたいことにメディアが取り上げてくれるようになりました」

そして昨年末には紅白歌合戦に出演。歌手の三山ひろしさんのバックでパ



▲音楽やダンスを融合したパフォーマンスで世界を魅了。9月はサンフランシスコで公演予定。

「オーファーが来た時は驚きましたね。反響も大きかったです」

そんな飯嶋さんにけん玉の魅力を聞いたところ、「僕にもまだできない技が生まれていて。シンプルな道具だからこそ、クリエイティブであると同時に、突き詰めていく楽しさがあります」

最後に今後の目標をお聞きしました。

「今と変わらずけん玉の魅力を伝える活動をしていきたい。その一環として、東京五輪などの大きなイベントに参加して、日本中や世界中の方に見てもらいたいですね」

これからもずくまだんけの活躍にご注目ください。



関東学院大学  
デザインクラブ

人間環境学部（現・人間共生学部）の学生有志が設立したデザイン集団。グラフィックやプロダクト制作のほか、学部や大学の枠組みを超えたプロジェクトにも挑戦して活動の場を広げている。

左から都志見龍二さん、鞆谷暁乃さん、唐澤碧海さん。

「お客様が『すごく可愛い！』と言つてくださつて。自分たちのデザインが人の手に届いて笑顔になる瞬間を見たのは初めてだったので、とても感激しました」

デザインクラブの活動は大学の外にも広がっています。今年の春には、京急百貨店が「母の日プロモーション」期間にお客様に配布する6種類のメッセージカードのデザインを担当。現在、新代表としてサークルを引っ張る3年生の鞆谷暁乃さんは、提案した中から2種類のデザインが採用されました。

「たくさん人の心に届けるものを作るがとてもやさしく、いろいろ教えてください」と、お母様と一緒に京急百貨店に足を運んだぞう。

都志見さんは、実際に母の日プロモーションがしました。企業の方がとてもやさしく、いり、感謝とともにとても勉強になりました

がともに、お母様と一緒に京急百貨店に足を運んだぞう。

「その時、一人のお客様が僕のデザインし



▲バックはビブリオバトル時に制作、またTシャツはマカロンイベントで制作。

「先輩たちが作ってくれた素敵な場所を守つて、さらにつ展していけるように、様々な人たちと協働しながら活動の輪を広げていきたいです」



▲京急百貨店の「母の日メッセージカード」のデザイン

# ディレクタントたち⑥

イタリア語の“喜びを見出す人”が語源のディレッタント  
学院関係者の知られざる趣味を探るこのコーナー。  
いま注目の「週末農業」を楽しんでいる方が登場します。



関東学院大学 経営学部  
渡辺 竜介

広報から

グローバル化の進展やICTの急速な発達に伴う社会構造の多様化や複雑化、超高齢社会による生産人口の減少や経済成長の鈍化などに端を発して、現在の日本は、膨大な社会的課題に直面しています。加速度的に変化する時代の中で、10年後20年後の社会でも通用し活躍できる人材輩出の要請に応えるため、関東学院では、実社会をフィールドに近隣の自治体や企業などと連携した実践的教育の推進、グローバル化の流れに対応すべく国際教育の強化、また多様性を体験的に学修することができる教育システムを導入するなど、教育の抜本的な改革を進めています。主体的に物事を捉え、あらゆる変化にも柔軟に対応できる人、また他者と協働・共

生しながら課題解決に努め、新たな価値を生み出すことのできる人が、新しい時代には求められています。子どもたち一人ひとりの資質や能力を最大限に伸ばし、予測困難な未来でも生き抜いていくことができる力を養うため、様々なニーズに応えられる学びの環境を整え、また、創立140年を迎える2024年に向けて総合学園としての連携教育の充実を図るとともに、今後も教育の質向上を積極的に進めていきます。引き続き、関東学院の挑戦にご期待ください。

関東学院大学 広報課  
(045) 786-7049 / kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

・編集：関東学院大学 広報課 　・写真：藤間 久子、森 日出夫（アマノスタジオ）

）・文章：坂尾 基子・デザイン：高橋 稔、竹本 真実（株式会社CCN）

関東学院トピックス

横浜中華街で半世紀以上の歴史を誇る四川料理の老舗が  
関東学院大学の学生食堂をプロデュース！！

重慶厨房 関東学院大学 横浜・金沢八景キャンパス店

住所／横浜市金沢区六浦東1-50-1 ☎/ 045-786-7002  
営業時間／平日 10:00～18:00 土曜 10:00～14:00 定休日／日曜・祝日  
※営業時間は学校行事の都合により変更になる場合があります。



▲四川ならではの辛さもしっかり味わえる

ワンコインで食べられる  
横浜中華街の名店の味

小田原キャンパスからの法学部移転に伴い新設された、金沢八景キャンパス3号館。今年4月、その1階に重慶飯店が運営する学生食堂「重慶厨房」がオープンしました。

重慶飯店は四川料理の専門店として1959年に横浜中華街に開店。横浜を代表する老舗中華店です。「学生の横浜への愛着を深めるために、横浜らしさを感じられる店舗を」という大学側の思いに応え、今回初めて学生食堂という未知なる業態に挑みました。

長がたどり着いたのが、独自のタレの開発です。

採れたてのもやしの消費量は、なんと1日20kg、多い時は30kgに及びます。

「野菜は鮮度が命。メニューが絞られている学食だからこそ調達できたものも多い。牛産者さんも頑張ってくれたんです」

いずれは「関東学院といえばコレ！」という名物料理も作ってみたいという木暮料理長。大学の栄養学部との共同開発にもチャレンジしないそうです。

「私はいろんな人とつながるのが好きなんですね。生産者さんや業者さんもそうですが、様々なアイデアを出し合うことで新しい



▲ 1-2 五款條狀重慶飯店別館「土蔴洗三料理」

い料理が生まれると思いますし、学生さん  
とのコラボも楽しめます。

キッと  
は全然





## Contents

- P.1 関東学院大学の今
- P.3 関東学院六浦中学校・高等学校
- P.5 関東学院六浦小学校
- P.6 関東学院六浦こども園
- P.7 それぞれの展望
- P.9 ふるさと関東学院募金
- P.11 Who's Who?
- P.13 関東学院トピックス
- P.14 ディレクタントたち

学校法人  
**関東学院**

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1  
法人事務局 ☎045-786-7028(代)

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>